

クワコナカイガラムシ

【学名：*Pseudococcus comstocki*】



写真1 果実の被害



写真2 雌成虫



写真3 卵のう

【被害と発生生態】

- ・発生部位…果実, 葉, 枝, 新梢
- ・発生時期…4月～10月にかけて3回発生します。
- ・症状…果実への寄生だけでなく, 排泄物にすす病菌が発生すると黒く汚れます (写真1)。

【見分け方】

- ・雌成虫は体長4mm前後のわらじ型で, 白色のろう物質に覆われています (写真2)。
- ・他のコナカイガラムシ類と比べて, 尾端の毛が長い (体長の半分程度の長さ)。
- ・卵のうは白い綿状のろう物質につつまれています (写真3)。

【対策】

- ・2齢幼虫以降は, 表面のろう物質が薬液をはじいて防除効果が低下します。そのため, ふ化直後の1齢幼虫を防除します。
- ・1齢幼虫の発生時期は, その年の気温によって前後しますが, 発育ステージの揃いやすい1回目の発生時期 (4月下旬～5月上旬) を重点的に防除してください。
- ・休眠期に粗皮剥ぎを行い, 越冬している卵のうを除去すると効果的です。
- ・9～10月に, 主枝に誘引バンドを巻き, 虫が活動を始める前の冬期にバンドを取り外して, 産み付けられた卵のうごと処分してください。